



- ◆オープニング—— 祇園手打 (祇園甲部)または素囃子 (先斗町)
- ◆上七軒—— 常磐津 千代の友鶴
- ◆先斗町—— 長唄 汐波
- ◆祇園甲部—— 長唄 菖蒲浴衣
- ◆宮川町—— 清元 玉兎
- ◆祇園東—— 清元 女車引
- ◆舞妓の賑い—— 京小唄 (五花街総勢20名)
- ◆フィナーレ—— 祇園小唄 (出演順)

第20回記念

京都五花街
伝統芸能公演

20回記念特別演目
至宝の芸、祝いの競艶。

祇園甲部「祇園手打」
22日午前の部 / 23日午後の部



先斗町「素囃子」
22日午後の部 / 23日午前の部



京都 南座
四條

6月22日(土)・23日(日)

各2回公演 / 午前の部 (11時～)
午後の部 (14時30分～)

チケット
発売

3月1日から

特別席 13,000円 / 1等席 10,000円 / 2等席 8,000円 / 3等席 6,000円
(学生 / 当日のみ3,000円若干名)

●(財)京都伝統伎芸振興財団(京都祇園)・南座(京都四條大橋)・京都総合観光案内所(京都駅)・大阪松竹座(大阪道頓堀)
新橋演舞場(東京銀座)・歌舞伎座(東京銀座 4月初旬から)・東京京都館(東京八重洲)・チケットぴあ(Pコード426-644)・ローソン
(Lコード51301) ●電話予約:チケットホン松竹 0570-000-489 ●Web販売:チケットWeb松竹

第20回記念限定

上村淳之画 日本手拭の
プレゼント

※ご来場時にお渡しします

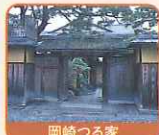


五花街の夕べ

6月22日(土)・23日(日) 18時30分～20時30分

～京の最高の食文化とおもてなし～

華やかな舞台の余韻をそのままに、五花街すべてから芸舞妓が集うホテルでの催しやミシュランガイドで紹介された料亭や旅館にて自慢の料理と芸舞妓との至福の時をお過ごしください。



※「五花街の夕べ」のチケットは京都伝統伎芸振興財団にて発売しております。ホテルでのチケットのみ東京京都館でも購入いただけます。(各会場定員となり次第締切とさせていただきます)

主催 / (財) 京都伝統伎芸振興財団・京都花街組合連合会 協力 / 松竹株式会社・京都物産出品協会
(公社) 京都府物産協会・京都市物産懇話会・京阪電気鉄道株式会社・阪急電鉄株式会社 後援 / 京都府・京都市
京都商工会議所・(公社) 京都市観光協会・(公社) 京都府観光連盟・(公財) 京都文化交流コンベンションビューロー

お問合せ (財) 京都伝統伎芸振興財団 URL <http://www.ookinizaidan.com/>
TEL.075-561-3901 京都市東山区四條花見小路下ル 弥栄会館 E-mail ookinizaidan@juno.ocn.ne.jp

都の賑い

チケット発売
3月1日から

●(財)京都伝統伎芸振興財団(京都祇園)・南座(京都四条大橋)・京都総合観光案内所(京都駅)・大阪松竹座(大阪道頓堀)新橋演舞場(東京銀座)・歌舞伎座(東京銀座 4月初旬から)・東京京都館(東京八重洲)・チケットぴあ(Pコード426-644)・ローソン(Lコード51301) ●電話予約:チケットホン松竹 0570-000-489 ●Web販売:チケットWeb松竹

京都四條 南座 6月22日(土)・23日(日)

各2回公演/午前の部(11時~) 午後の部(14時30分~)

特別席 13,000円 1等席 10,000円

2等席 8,000円 3等席 6,000円 (学生/当日のみ3,000円若干名)

主催/(財)京都伝統伎芸振興財団・京都花街組合連合会
協力/松竹株式会社・京都物産出品協会(公社)京都府物産協会・京都市物産懇話会
京阪電気鉄道株式会社・阪急電鉄株式会社 後援/京都府・京都市・京都商工会議所(公社)京都市観光協会(公社)京都府観光連盟(公財)京都文化交流コンベンションビューロー

祇園甲部芸妓連中 祇園手打「七福神・花づくし」

歌舞伎発祥の地である京都では毎年顔見世が行われ、歌舞伎役者の乗り込みを迎える手打式のことで、昔は多くの男性が行っていましたが、のちに女性が行うようになりました。その際、出演者は一人ひとり口上を言ったといわれ、それが祇園の芸妓に伝えられ一つの名物となりました。幕があくと三味線を弾くもの、唄うもの、しころ板を打つもの、笛を吹くもの、太鼓を打つものが舞台上で、あとの一同は揃いの紋付を衣裳に、頭には笹竜胆(さざりんどう)の紋のある手拭いをたたんで、手に紫檀の柏子木を持ち、それを打ちながら「木頭(きがしら)」の音頭によって花道より出てまいります。唄う曲には「七福神」「石橋」「七草」「おひたき」等、色々あります。一斉に囃し打たれた拍子木の響きは、賑々しく、絢爛かつ古風な中にも、雅やかさを感じさせます。

先斗町芸妓連中 素囃子「鏡獅子」

素囃子と言われるものは、主として長唄の曲に鳴物が加わった演奏方法をいいます。もちろんこれには踊りは入っておりません。長唄の唄方と三味線方が舞壇の上に並び、下段には向って右より笛、小鼓、大鼓、太鼓の順に囃子方が並んで演奏されます。曲目には、能より取り入れた「道成寺」「勸進帳」「鶴亀」などが昔からありますが、ほかに「元禄花見踊」や今回の演目「鏡獅子」のように近世新しく作曲された曲で、今日名作と言われるものもあります。現在の邦楽は日本舞踊の伴奏音楽のように思われがちですが、素唄、素浄瑠璃と呼ばれる純粋のききものとして演奏される曲も多くあります。従いまして素囃子はこの素唄(長唄と三味線)に囃子が加わったものであります。

上七軒

常磐津 「千代の友鶴」



作詞:不詳/作曲:四世 岸沢古式部(五世岸沢式佐)
振付:花柳輔太郎

作曲者は、常磐津の名曲の大半を生み出した四世岸沢古式部であります。内容は、彼と長年共に常磐津の為に尽力した常磐津豊後大掾の墓がある広尾の祥雲寺界隈の風景を四季折々に描写した曲であります。俗に「広尾八景」とも呼ばれます。題名の「千代の友鶴」とは、豊後大掾と古式部との千代も変わらぬ友情という意味が、そこに込められています。

祇園甲部

長唄 「菖蒲浴衣」



作詞:不詳/作曲:二世 杵屋 勝三郎 三世 杵屋 正次郎
振付:四世 井上 八千代

安政六年(一八五九)、五世芳村伊三郎の名披露目の折に開曲されたもので、菖蒲咲く初夏のころの江戸の風情を描いています。作曲は二世杵屋勝三郎と三世杵屋正次郎。作詞は不詳ですが、呉服にちなんだ言葉なども入れ、袷の着物から単衣の浴衣に衣更えした軽やかな気分や風景を描いています。井上流では、昭和三十三年に四世井上八千代が振り付けました。芸妓たちの舞の袖がさわやかな初夏の風を客席に送ります。

祇園東

清元 「女車引」



作詞:三代目 桜田 治助/作曲:清元 千蔵
振付:藤間 紋寿郎

この曲は、吉原の俄の浄瑠璃として出来たもので、作者は三代目桜田治助、作曲者は清元千蔵であるとされています。松王の女房・千代、梅王の女房・春、桜丸の女房・八重の3人が、菅原の車引ぎの扮装で出て、佐田村の賀の祝いの心で雑煮の振りがあり総踊りになる趣向でございます。

先斗町

長唄 「汐汲」



作詞:二世 桜田 治助/作曲:二世 杵屋 正次郎

文化8年(1811)に上演された「七枚続花の錦絵」と言う七変化舞踊の中の一つです。能の「松風」から趣向を借りていますが、内容としてはすっかり歌舞伎仕立てとなっております。烏帽子を付け、汐汲み桶を担いで出る姿は日本人形や羽子板の題材にもなるくらいの人気ポピュラーなものです。

※写真はすべて昨年の公演です

宮川町

清元 「玉兎」



作詞:二世 桜田 治助/作曲:清元 万吉
振付:若柳流 五世宗家・家元 若柳 吉蔵

七変化舞踊「月雪花名残文台」の一つで、月から出た兎が団子を作り、カチカチ山や泥舟の物語などのおとぎ話の世界が面白く展開します。歌詞に「月の影勝飛団子」とありますが、月の影から兎が飛び出した意味と当時江戸で子供相手に売り歩いた小さな菓子「飛団子」の意味を重ねています。この度は、芸妓ならではの男女の素踊りとしてご覧いただけます。

五花街合同

舞妓の賑い 「京小唄」 フィナーレ 「祇園小唄」



【舞妓の賑い】

~五花街の舞妓が一堂に会する華やかな舞台~

京の四季の移ろいに、名所や行事の風情が巧みに織り込まれた「京小唄」に合わせ、各花街が独自の流派をご披露します。五花街の舞妓20名が揃い華やかに舞納めます。その絶妙な振り付けの違いをぜひご堪能下さい。そして、フィナーレへ...

五花街の夕べ 料亭のご紹介

※下記花街の名称は、料亭で舞やおもてなしをさせて頂く花街名を記しております。

瓢亭(定員30名) | 上七軒

400年前、南禅寺の参道で茶店を開いたのが始まりです。天保8年8月15日より料理店となり、現在に至ります。今でも当時の茶店の風情がそのまま残っており、懐かしい気分になります。和敬静寂の茶の精神を料理に生かした茶懐石料理の老舗です。

なかむら(定員30名) | 宮川町

1800年代初頭、ぐじや鱈などの若狭ものを「鯖街道」を通じて京都に運び、都の公卿衆に供したことに始まります。ぐじの酒焼き、白味噌雑煮は暖簾の歴史とともに引き継がれてきた自慢の品で、「一子伝信」がかたくなに守られています。

終家(定員35名) | 先斗町

来者如帰。我が家に帰って来られたように、くつろいでいただきたい。1818年の創業以来この心を大切に、今も昔もかわらぬおもてなしの心と旬の食材あふれるお料理で皆様をお迎えいたします。

菊乃井(定員30名) | 祇園東

東山の真葛ヶ原は、いにしえより花を愛で、月を愛でる遊興の地でした。菊乃井では今もなお、風雅風流の習いを伝えて、都の宴を饗します。料亭という名の和の空間に漂う、優雅の気配。京都の季節に生かされてこそ京料理を美酒と美風のもとでごゆっくりと。

岡崎つる家(定員50名) | 祇園甲部

深い緑の東山を背景に四季折々の風情豊かな岡崎つる家。山ふところに流れる流水の水を取り入れた庭園には、茶席、燈籠などを配し、樹木や花、竹の葉ずれも美しく、京の名園の1つにも数えられています。

炭屋(定員30名) | 祇園甲部

京都を代表する繁華街のそばにありながら、一步邸内に入れば静かな市中の山居。料理の味わいは勿論、盛りつけや器、しつらえにいたるまで、茶の湯の心をあます所なく取り入れて「もてなしの心」をお届けしたいとお待ち申し上げております。